

# 「CE」の先進事例を紹介

## オンラインで情報交換会開催

### 繊維リサイクル技術研究会

(一社)日本繊維機械学会・繊維リサイクル技術研究会(委員長・木村照夫京都工芸繊維大学名誉教授)は1月8日、第137回情報交換会「サーキュラーエコノミーの最前線」をオンライン開催した。NPO未利用資源事業化研究会との共催で、アパレル企業担当者や故繊維業者、リサイクル関連事業者、学識者など約100人が参加。2社の先進事例について講演があり、質疑応答も活発に行われた。伊藤忠商事の繊維力

ンパニー繊維原料課課長の下田祥朗氏は、「伊藤忠商事の環境戦略、RENU」を中心として」と題して登壇。大量のCO<sub>2</sub>やごみの排出といった繊維産業における環境問題を解説した上で、その解決に向けた取り組みの一端として、同社が展開する再生ポリエステル事業「RENU」を紹介した。

2019年にスタートしたRENUプロジェクトでは、裁断くずや使用済み衣料を原料に使い、分解・再重合という工程を経ること

で、石油由来のポリエステルと同等の品質を実現。これまでに国内30ブランド以上で採用されており、さらに今後、生地ラインアップ拡充やグローバルブランドへの本格採用、異業種との取り組みなどを進めていくという。

次に、エイチ・アンド・エムヘネス・アンド・マウリッツ・ジャパンのCSR/サステナビリティ・コーディネーター、山浦誉史氏が「イノベーションによる循環型プロ

セス」をテーマに講演を行った。まず、「サステナビリティとは「フアッションを長く楽しむ」をテーマに講演を行った。まず、「サステナビリティとは「フアッションを長く楽しむ

ち」をテーマに講演を行った。まず、「サステナビリティとは「フアッションを長く楽しむ

## 京都市寺町に店舗オープン

### ワイファブリック

### 余剰在庫や古着の再流通で

アパレル在庫の卸売・仕入れサイト「スマセル」を運営するワイファブリック(大阪市西区、福屋剛社長、06・6459・7406)は2月10日、京都市寺町にオフプライ

ストア「Re:inn e(リンネ)」をオープンした。余剰在庫品や古着を定価の最大9割引きで売ること、衣類の再流通を図る。輸入・小売業を手掛けるエスピービー(名古屋

市、後藤裕次社長)と協業で運営していく。同社は、アパレル業界の大量廃棄問題の解

決を目指す、事業を展開。アパレル在庫を販売したいサプライヤーと特価商品を求めるバイヤーをマッチングする同サイトを2017年7月から運営している。会員数はサプライヤーが約1100社、バイヤーが約4万70

むチカラ」とし、取り組みの根幹となるビジョンを説明。「製品のデザイン、販売、回収、リサイクルなどバリューチェーンの全ての段階で循環型のビジネスモデルへの変革を進めている」と述べた。

「特に素材の選択は大事なポイントだ」と強調し、農産物の廃棄

部分为原料にした繊維やRENUといったサステナブル調達素材を紹介。国内外でのパートナーシップによる複合素材分離技術の開発、21年中にインドネシアで完成予定のリサイクルプラントや店内「LOOP」などに

00 同 報と い、 舗運 級ア トフ 広く 10 示。